

《日本脳炎予防接種を受けるかたへ》

日本脳炎とは

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。ヒトから直接ではなくブタなどの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介され感染します。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。ヒトからヒトへの感染はありません。日本脳炎ウイルスは西日本を中心に広い地域で確認されており、最近では免疫力の低下した高齢者に多く発生しています。感染者のうち100～1000人に1人が脳炎を発症します。夏かぜ様の症状で終わる人もいますが脳炎や髄膜炎になる人もいます。脳炎にかかった時の死亡率は約20～40%ですが、神経の後遺症を残す人が多くいます。

日本脳炎ワクチンについて

乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンは、ベロ細胞という細胞でウイルスを増殖させ、ホルマリンなどでウイルスを殺し（不活化）、精製したものです。

【接種方法】日本脳炎ワクチンを皮下接種

第1期は7歳6か月になる前までの間に

初回接種は1週間～4週間までの間隔で2回接種

追加接種は初回接種終了後概ね1年あけて1回接種

第2期は9歳から13歳未満の間に1回接種

※ 日本脳炎特例措置

接種差し控えにより、第1期（計3回）及び第2期（計1回）が完了していない

ア：平成19年4月2日～平成21年10月1日生まれの方で、9歳以上13歳未満の間に限り、不足回数を無料で接種できます。

イ：平成7年4月2日～平成19年4月1日生まれの方は、20歳未満の間に残りの回数を無料で接種できます。ただし、第2期の接種は、第1期（計3回）が完了した9歳以上の方に限られます。

副反応等について

現在使用されている乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンの添付文書によると、本剤の臨床試験において生後6か月以上90か月未満の小児123例中49例(39.8%)に副反応が認められ、その主なものは発熱(18.7%)、咳(11.4%)、鼻汁(9.8%)、注射部位紅斑(8.9%)であり、これらの副反応のほとんどは接種3日後までに見られたとされています。

なお、ショック、アナフィラキシー様症状、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳症、けいれん、急性血小板減少性紫斑病などの重大な副反応の発生も否定できません。平成22年度に厚生労働省に届けられた予防接種後副反応報告によると、乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン接種後の副反応報告は148件で、内容は39℃以上の発熱70名、けいれん12名、重篤な副反応としては脳炎・脳症3件等でした。なお、日本脳炎ワクチン以外でも接種後にADEMが発生する場合があります。

また、海外では、乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン以外の他の細胞培養ワクチン接種後にもADEM発症例が報告されています。

予防接種を受けることができない人

- 1 明らかに発熱のある人→接種会場で測定した体温が37.5度を超える場合をさします。
- 2 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
その日に受ける予防接種によって、アナフィラキシーをおこしたことがある人
- * 「アナフィラキシー」とは通常接種後約30分以内に起こる強いアレルギー反応のことです。
発汗・顔が急に腫れる・全身にひどいじんましんが出るほか、吐き気・嘔吐（おうと）・声が出にくい・息が苦しいなどの症状に続きショック状態になるような激しい全身反応のことです。
- 3 医師が不適当な状態と判断した場合
- 4 上の1～3に当てはまらなくても医師が接種不適当と判断したときはできません。

受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人

* 主治医がいる場合には必ず前もって診ていただき、その医師のところで接種するか、あるいは診断書または意見書をもってから接種に行きましょう。

- 1 前に予防接種を受けたとき、2日以内に発熱・発しん・じんましんなどの、異常がみられた人
- 2 今までにけいれんを起こしたことがある人
*原因がはっきりしている場合には、一定期間たてば接種できます。
- 3 心臓・腎臓・肝臓病や血液の病気などで治療を受けている人
- 4 風邪のひきはじめと思われる人。
*このような時は、なるべく接種を控えましょう。
- 5 薬の投与を受けて皮膚に発しんが出たり、体に異常をきたしたことがある人。
ワクチンのなかには抗原のほか培養に使う物の成分や抗生物質・安定剤などが入っていますので、これらにアレルギーがあるといわれたことがある人。
*このようなアレルギーがあると具合が悪くなったりする事があるので、医師とよく相談してから接種しましょう。
- 6 家族の中または遊び仲間・クラスメートの間で、はしか・風しん・おたふくかぜ・水痘（水ぼうそう）などの病気が流行している時で、受ける本人がその病気にかかっておらず、その予防接種を受けていない場合

予防接種を受けた後の注意

- 1 予防接種を受けた後30分程度は医療機関（施設）で静かに待機していきましょう。急な副反応はこの間に出現することがあります。
- 2 接種局所の発赤・腫れ・しこり等の局所反応が出る場合があります。
- 3 気分が悪くなる、腫れが目立つ、高熱が出たりするような場合は、保健センターに連絡するとともに、医師の診察を受けてください。お子さんの症状が重い場合、予防接種法に基づく健康被害救済の給付の対象となります。
- 4 入浴は差し支えありませんが、注射部位をこすることはやめましょう。
- 5 接種当日はいつもどおりの生活をし、翌日までは激しい運動を避けましょう。
- 6 接種後の旅行などは控えましょう。

* 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

※給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、各保健センターへご相談ください。

<保護者の同伴について>

予防接種をするにあたり、保護者（父や母）の同伴が原則です。日本脳炎の予防接種については、満13歳以上の方に限り、保護者がこの説明書を読み、予防接種の効果や目的、重篤な副反応発症の可能性及び予防接種救済制度などについて理解したうえで、納得してお子様に予防接種を受けさせることを希望する場合に、予診票の保護者自署欄に署名することによって、保護者が、同伴しなくてもお子様は予防接種を受けることができます。

保護者が同伴できない場合は、予診票の保護者自署欄のご署名がないと予防接種は受けられません。

【問い合わせ先】

中央保健センター ☎0480-21-5354

菖蒲保健センター ☎0480-85-7021

栗橋保健センター ☎0480-52-5577

鷲宮保健センター ☎0480-58-8521